

■多世代交流の促進と場づくりについて

1. これまでに出了された意見（中間とりまとめ等より）

- ・（つつみカフェのような「交流の場づくり」について）これからは、こういう事業こそが**住民参加型の事業**になってくるのではないかな。
- ・絆づくりはまちづくりの柱なのではないか。絆づくりから始まり、最終的には**高齢者の見守りや生活支援**などにつながっていく。
- ・人々が集まったら対話があるし、やる気が起こる。一緒になると何かやれるというのはキーワードかなと思った。
- ・毎週継続して実施できるようなものが良い。いつでも門戸を広げて皆さん来てくださいよという形で。「来たいときだけでもいい」という雰囲気づくりも必要。
- ・公園内に**高齢者と若いお母さんたちの憩いの場**のようなものが作れないかと行政に要望している。対話の場にもなるし、その部屋から子どもたちを見守れるというような一つのモデル公園として。
- ・地域カフェなどで、整骨院の方に話をしてもらおうと、聞きたい人がたくさんいるのでは。これも**企業にとってのメリット**であり、社会情勢の変化等により、そういう空気というか土壌ができてきているような気がする。

2. 求められる取り組みなど（中間とりまとめより）

- ・高齢者の見守りや生活支援などにつながる「地域の絆」の醸成
- ・地域住民の交流の「場づくり」（地域カフェなど）
- ・交流の場づくりのための公園、空き家などの活用
- ・多様な世代・人が参加する仕組みづくり

3. 現状

【自治協議会、自治会・町内会】

- ・自治協議会においては、公民館や自治会・町内会、学校や各種団体などと連携して、交流イベントなどを実施（運動会や夏祭り、餅つき、カフェなど）。
- ・昨年度から、新たな住民の参加を促す「地域デビュー応援事業」を活用し、新たなイベントを実施（ボーリング大会や自然体験、餅つきなど）。
- ・地域デビュー応援事業については、今年度からは、交流の場としての「地域カフェ」も開催できるよう拡大

【各種団体等】

- ・子ども会による様々なイベント、子育て交流サロン、ふれあいサロン、老人クラブ事業など

【地域カフェ】

- ・「ふら〜っとカフェ壱岐南」「つつみカフェ」などの開催

4. 課題

- ・ イベント的な開催は行われているが、日常的な常設の交流の場が少ない。
- ・ 支え合いではなく、幅広い世代が「顔の見える関係づくり」を促進する方策。
- ・ 市としてどのようなサポートができるのか

5. 取り組みの具体的なイメージ

【自治協議会，自治会・町内会】

- ・ 公民館でのカフェの拡大
- ・ 地域集会所，地域の公園でのカフェの充実
- ・ 商店街の空き店舗や空き家などを活用しての交流の場づくりの開催
- ・ 賃貸住宅事業者の協力による集合住宅などの空きスペースの活用
- ・ 事業所などの空きスペース（事業所の一角，駐車場など）の活用
- ・ 地域住民が自宅などを開放してのコミュニティスペース など

【民間など】

- ・ コンビニやスーパーなどの空きスペースの活用
- ・ 喫茶店や個人商店などによるコミュニティカフェの常設
- ・ 地域の出会い，集い応援店 など

◎交流の場としての地域カフェの拡大イメージ

事業者 主体	住民 ＋ 事業者	住民 主体	単発	定期	常設
			交流イベント (地域カフェのほか 運動会，夏祭りなど)	公民館や地域集会所 などを使った 地域カフェ (つつみカフェなど)	公民館に常設の交流ス ペースを設置 (ふくろう館(老司)， こどもの出番です！ (有住))
				社会福祉法人等の事業 者が場所を提供し， NPOと住民が カフェを開催 (ふら〜っとカフェ 壱岐南など)	地域やNPOなどが， 商店街の空き店舗を活 用し，地域住民や来訪 者を対象とした カフェを設置 (〇〇商店街)
					コミュニティを重視し た民間経営による カフェを認定 (札幌市)